

編集後記

岸田首相は、今年の春から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけを、現在の2類相当から、季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げる方針を発表しました。諸外国の状況を見ると妥当な方向性なのかもしれませんが、引き下げが実施されると患者への「入院勧告」や患者や濃厚接触者への「行動制限」はできなくなりますので、病院に勤務する者としては、これをきっかけに感染が急拡大するのではないかと心配な点もあります。また変更になったからといって、現在診療していない病院ですぐに新型コロナウイルス患者の診療ができるわけではないでしょう。当面は高額治療薬の費用などは公費負担となるようですが、いずれにしても院内での感染対策は引き続きしっかりと行う必要がありそうです。

さて今月号の特集は「骨粗鬆症と運動器疾患」というテーマで私が企画させていただきました。骨は「屋台骨」という言葉があるように、身体全体を支える器官というイメージが強いと思いますが、「骨身にしみる」というような熟語もあることから、生体にとって重要な臓器であることも認識されています。皮膚に付属するように形成される外骨格(exoskeleton)は昆虫

などにもみられ、このような生物の身体を支える役割を果たしていますが、哺乳類にみられるようなヒドロキシアパタイトを主成分とする内骨格(endoskeleton)は、進化的には魚類以降にみられます。特に陸上で生活する哺乳類においては、骨格は身体を支えるのみならず、関節を形成し、筋が付着してモーターとして働くことで、身体を動かすために必須な器官になっています。

骨粗鬆症は骨強度の低下をきたし、そのために骨折リスクが高まる疾患と定義されますが、最近骨折のみならず様々な運動器疾患と骨粗鬆症が直接的、あるいは間接的に関係することが明らかになり、注目されています。本特集では骨系統疾患、関節リウマチ、変形性関節症、サルコペニア・フレイル、スポーツ障害、股関節疾患、後縦靭帯骨化症、そして脊髄損傷と骨粗鬆症との関係についてそれぞれの分野の第一人者の方々にご解説いただきました。大腿骨近位部骨折の二次性骨折予防継続管理料の新設もあって注目されている骨粗鬆症患者の管理ですが、運動器との関係という点でも本特集が皆様のお役に立てば幸いです。

(田中 栄)

「整形・災害外科」第66巻 第3号(3月号) 2023年3月1日発行(毎月1回1日発行) 定価 2,970 円(本体 2,700 円+税 10%) 年間購読料金 定価 45,980 円(本体 41,800 円+税 10%) [年間13冊(臨時増刊号、増大号を含む)の誌代] [年間予約購読者に限り送料無料]	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03(3811)7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811)7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813)0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03(5226)2791
--	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。